

水道料金・下水道使用料の改定について（案）

パブリックコメント資料

**令和6年1月
弘前市上下水道部**

目次

1	はじめに	・ ・ ・ P 2
2	料金の仕組み	・ ・ ・ P 3
3	水道事業の現状	・ ・ ・ P 4
4	水道料金改定（案）	・ ・ ・ P 6
5	料金改定後における 水道事業の財政状況	・ ・ ・ P 8
6	下水道事業の現状	・ ・ ・ P 10
7	下水道使用料改定（案）	・ ・ ・ P 12
8	料金改定後における 下水道事業の財政状況	・ ・ ・ P 14
9	【参考】県内 10 市に おける料金比較	・ ・ ・ P 16

1 はじめに

当市の上下水道事業は、地方公営企業法及び地方財政法に基づき、地方公共団体が経営する「地方公営企業」と位置づけられ、原則として税金ではなく、皆さまからいただく水道料金及び下水道使用料（以下、「料金」という。）で賄う「独立採算制」により経営を行っております。

水道事業については、いつでも安心して使用できる水を、効率的な経営のもとで適正な料金で安定して提供すること、下水道事業については、家庭や事業所などから排出される汚水を浄化するための費用やその施設を維持管理するため、効率的な経営のもとで適正な金額で安全で快適な暮らしを維持することが求められます。

しかし、近年、全国的に上下水道事業を取り巻く環境は大きく変化し、人口減少や節水意識の高まりなどの要因による水需要の減少により、料金収入が減少傾向であるのに対し、既存の老朽化した施設・設備の維持管理費用が増加傾向となっており、現状の料金収入では、上下水道事業経営の維持が困難であることから、2025(令和7)年4月に「水道料金 10.9%」、「下水道使用料 17.9%」程度の値上げを行うものであります。



水道管の布設替工事



百沢浄化センター（下水処理施設）



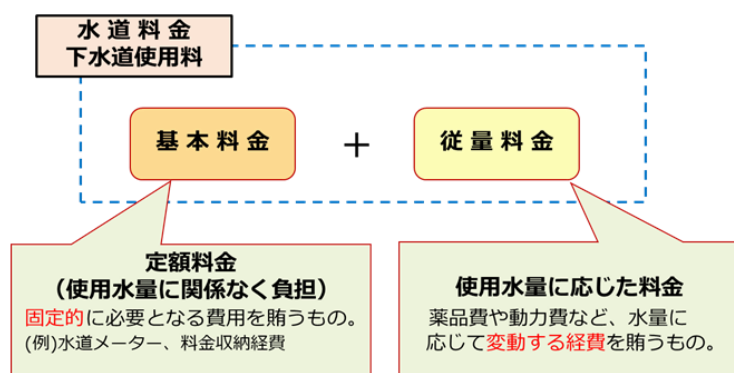
老朽化した水道管からの漏水



老朽化した下水管の内部

2 料金の仕組み

①当市の料金体系は、使用水量に関わらず負担していただく『基本料金』と、使用水量に応じて負担していただく『従量料金』で構成されています。（※二部料金制）



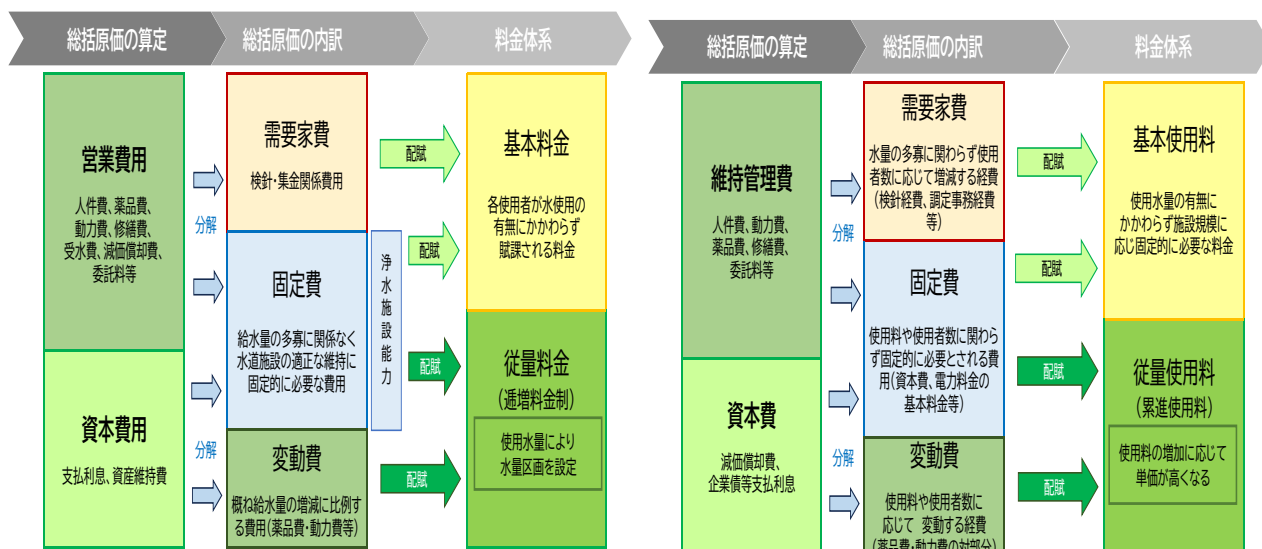
現行料金表(税抜)		基本料金		【増増型】多く使うほど単価は高く		
一般用	用途・口径別	基本料金(円)		水道料金(1mにつき) (円)		
				第1段階	第2段階	第3段階
	13mm・20mm	0～10㎡まで	1,548	11～20㎡	21～40㎡	41㎡以上
	25mm		2,028	202	213	224
	30mm	基本水量	3,097	1～50㎡	51～200㎡	201㎡以上
			5,979	213	224	235
	75mm		10,359	1～500㎡	501～5,000㎡	5,001㎡以上
	100mm		31,398	従量料金		
	150mm		50,728	224	235	245
	200mm		114,699			
			185,611			

②料金の構成については、経営に必要な費用の合算を「総括原価」として算定し、総括原価と料金収入の総額が一致するように水道料金・下水道使用料を算定しています。（※総括原価方式）

水道・下水道ともにその費用の大半が固定費であるものの、全額を基本料金とするのは著しく高額になるため、実際にはその一部を基本料金とし、他を従量料金として賦課するのが妥当とされています。

「水道料金算定要領」に基づく算定方法

「下水道使用料算定の基本的考え方」に基づく算定方法



3 水道事業の現状

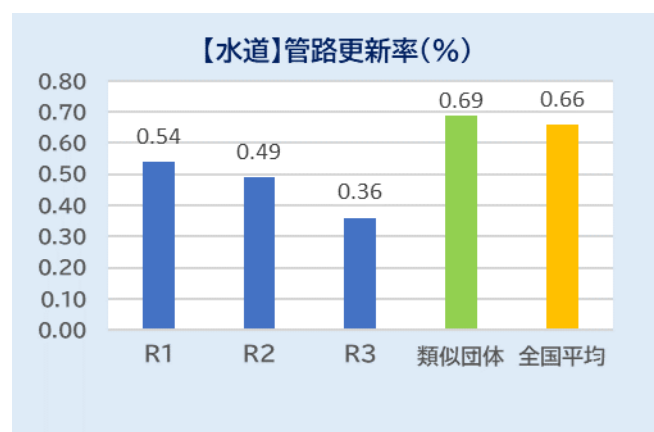
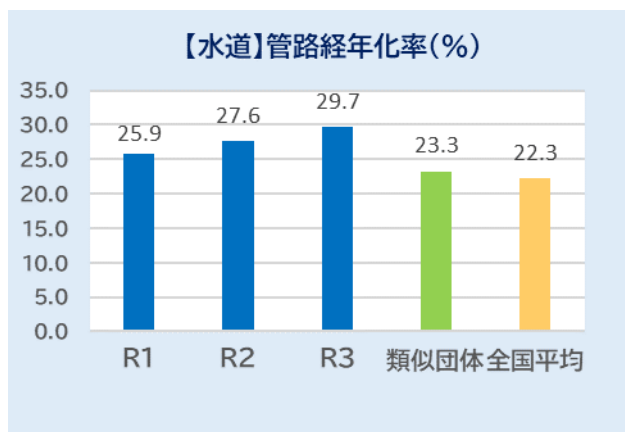
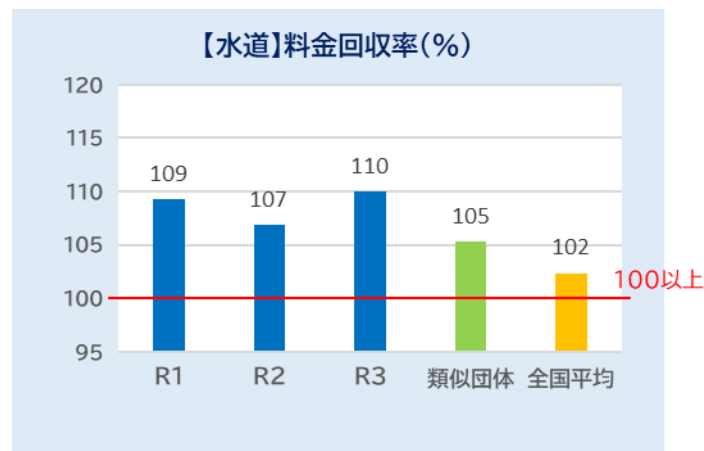
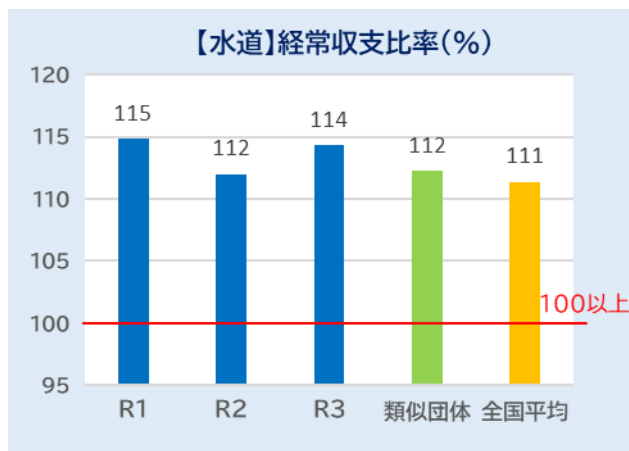
❶1933(昭和8)年に給水を開始して以来、生活様式の変化や産業・経済の発展とともに水需要に応えるため拡張事業を進め、2022(令和4)年度末現在における普及率は98.06%となっております。

近年の経営状況は、水道料金などで施設などの維持管理にかかる費用などをどの程度賄えているかを表す「経常収支比率」は100%を超えて、単年度の収支は黒字を確保しているほか、給水に係る費用が水道料金などで賄えているかを表す「料金回収率」も100%を超えております。

一方で、耐用年数を超えた管路延長の割合を表す「管路経年化率」は年々上昇し、管路を更新する必要性が高まっており、さらには、各年度に更新した管路延長の割合を表す「管路更新率」は0.5%前後の低水準で推移し、現行水準で全ての管路を更新するのに相当の年数がかかる試算となっております。

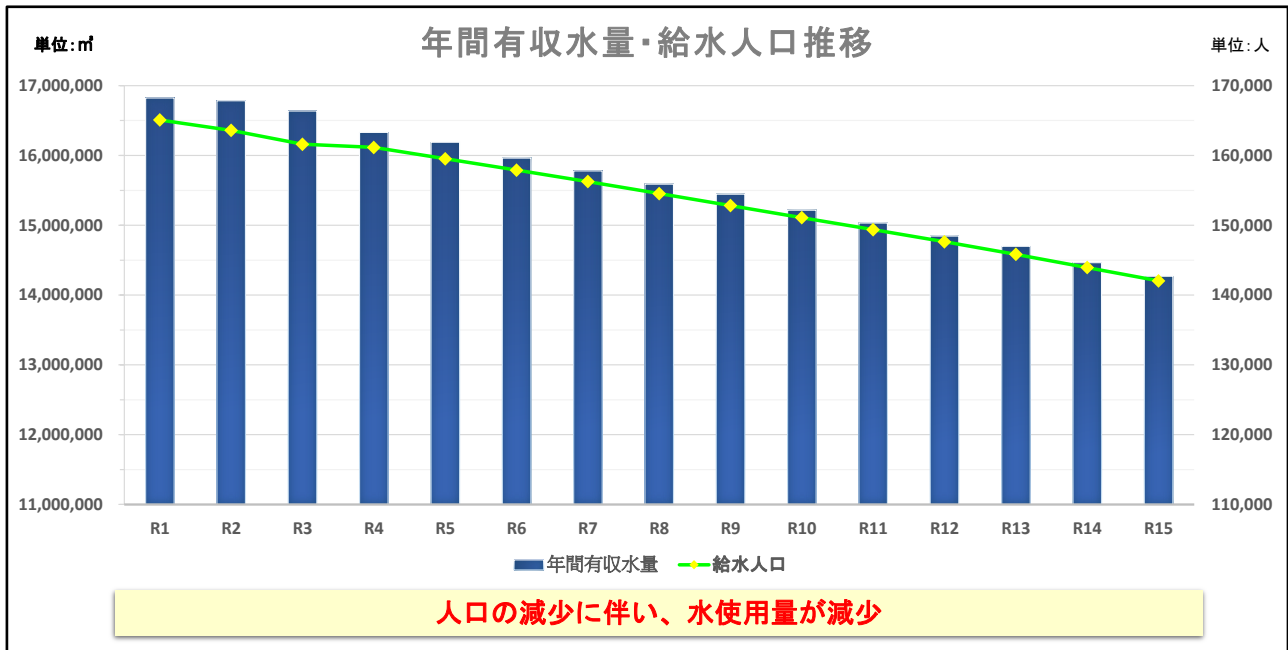
これらのことから、今後も継続して安心・安全な水道水を安定的に供給するためには、老朽化した水道施設の更新や耐震化工事などを継続的に行う必要があります、多大な資金が必要ですが、人口減少による水需要の減少などの要因で、水道料金などの収益の確保が年々厳しくなり、現在の料金体系では資金が不足することが見込まれております。

このため、今後必要となる資金を確保し、将来世代に負担を先送りしないためにも、水道料金を改定する必要があります。



※「類似団体」とは・・・弘前市と同規模の団体のこと。
(末端給水事業かつ現在給水人口15万人以上30万人未満)

②水道料金の根拠となる有収水量は、今後も人口減少に合わせて減り続けることが見込まれ、現行の水道料金では継続して安心・安全な水道水を安定的に供給することが困難であります。



4 水道料金改定（案）

① 現行の水道料金では、安心・安全な水道水の安定的な供給が将来的に困難であることから、標準的な家庭である3人から4人家族のひと月の使用水量として多い

「20 m³」を基に計算した場合、本来であれば令和7年度に1,137円(28.9%)、令和17年に304円(6.0%)の値上げが必要と試算されておりますが、物価高などによる市民負担増を最小限に抑えることに主眼を置き、2025(令和7)年度、2028(令和10)年度、2031(令和13)年度の3年度おきに段階的に値上げいたします。

2025(令和7)年度は、使用水量20 m³を基に計算した場合、427円(10.9%)の値上げとなります。

本来必要な料金改定額及び料金改定率(税込)

年度 種別	現行	R7(2025)年度			R17(2035)年度		
	料金	料金	改定額	改定率	料金	改定額	改定率
水道料金	3,922	5,059	1,137	28.9%	5,363	304	6.0%
下水道使用料	3,145	4,875	1,730	55.0%	4,875	—	—
合計	7,067	9,934	2,867	40.5%	10,238	304	3.0%

※現行料金は、使用水量・汚水量を20m³/月を標準として算出

《本来必要な改定率》

令和7年度に 28.9%引上げ

令和17年度に 6.0%引上げ



《激変緩和》

令和7・10・13年度の
3回に分けて値上げを実施

激変緩和を考慮した料金改定額及び料金改定率(税込)

年度 種別	現行	R7(2025)年度			R10(2028)年度			R13(2031)年度		
	料金	料金	改定額	改定率	料金	改定額	改定率	料金	改定額	改定率
水道料金	3,922	4,349	427	10.9%	4,827	478	10.9%	5,160	333	6.8%
下水道使用料	3,145	3,707	562	17.9%	4,225	518	13.9%	4,901	676	16.0%
合計	7,067	8,056	989	13.9%	9,052	996	12.3%	10,061	1,009	11.1%

※現行料金は、使用水量・汚水量を20m³/月を標準として算出

② 現行と 2025 (令和 7) 年度改定の料金を比較すると以下のとおりとなります。

《一般用》 上下水道料金早見表 ～現行料金と令和7年度改定(案)との比較～

10.9%引上げ				17.9%引上げ							
水道料金【口径20mm/1か月あたり税込】				下水道使用料【一般家庭/1か月あたり税込】				水道料金・下水道使用料合計【1か月あたり税込】			
使用水量	新料金	現行料金	差 額	使用水量	新料金	現行料金	差 額	使用水量	新料金	現行料金	差 額
10m ³	1,889円	1,702円	+187円	10m ³	1,587円	1,345円	+242円	10m ³	3,476円	3,047円	+429円
20m ³	4,349円	3,922円	+427円	20m ³	3,707円	3,145円	+562円	20m ³	8,056円	7,067円	+989円
30m ³	6,939円	6,262円	+677円	30m ³	5,887円	4,995円	+892円	30m ³	12,826円	11,257円	+1,569円
40m ³	9,529円	8,602円	+927円	40m ³	8,877円	7,535円	+1,342円	40m ³	18,406円	16,137円	+2,269円
50m ³	12,249円	11,062円	+1,187円	50m ³	11,867円	10,075円	+1,792円	50m ³	24,116円	21,137円	+2,979円

③ 現行と 2025 (令和 7) 年度改定の料金体系を比較すると以下のとおりとなります。

現行料金(概数)

◆基本料金10.9%・従量料金10.9% 均一に増額

用途・口径別	基本料金(円)		水道料金(1m ³ につき) (円)		
			第1段階	第2段階	第3段階
一般用	13mm・20mm	0～10m ³ まで	1,548	11～20m ³	21～40m ³
	25mm		2,028	202	213
	30mm		3,097	1～50m ³	51～200m ³
	40mm		5,979	213	224
	50mm		10,359	1～500m ³	501～5,000m ³
	75mm		31,398		5,001m ³ 以上
	100mm		50,728		
	150mm		114,699	224	235
	200mm		185,611		245

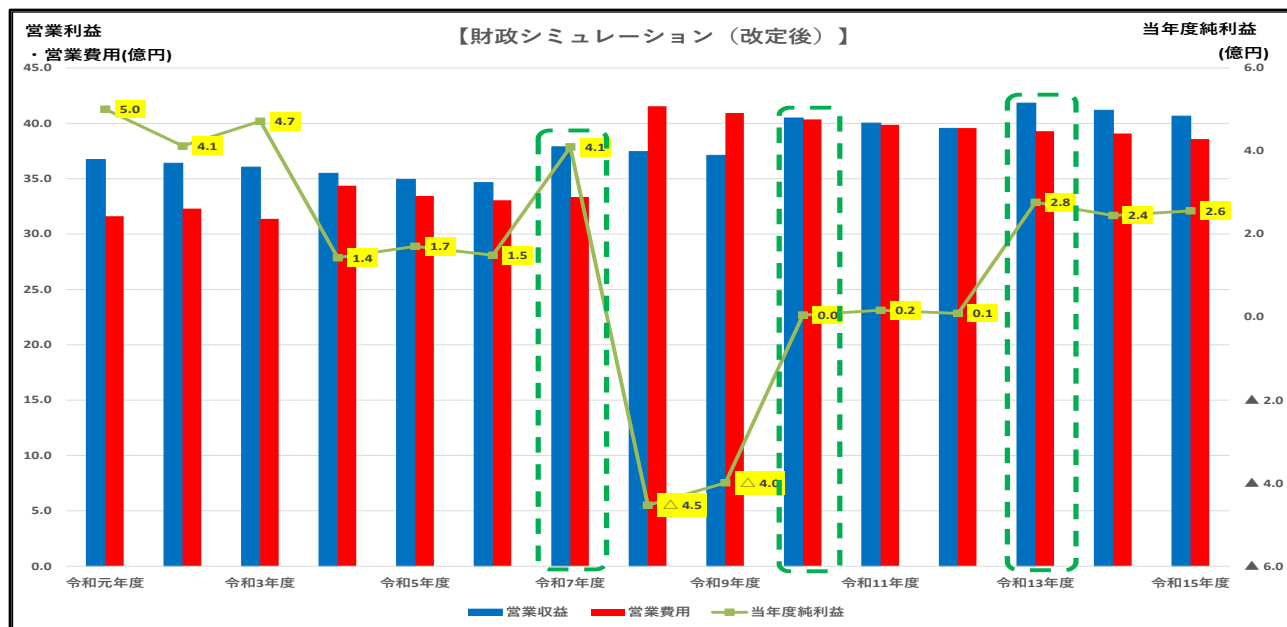
用途・口径別	基本料金(円)		水道料金(1m ³ につき) (円)		
			第1段階	第2段階	第3段階
一般用	13mm・20mm	0～10m ³ まで	(+170) 1,718	11～20m ³	21～40m ³
	25mm		(+223) 2,251	(+22) 224	(+23) 236
	30mm		(+340) 3,437	1～50m ³	51～200m ³
	40mm		(+657) 6,636	(+23) 236	(+24) 248
	50mm		(+1,139) 11,498	1～500m ³	501～5,000m ³
	75mm		(+3,453) 34,851		5,001m ³ 以上
	100mm		(+5,580) 56,308		
	150mm		(+12,616) 127,315	(+24) 248	(+25) 260
	200mm		(+20,417) 206,028		(+26) 271

用途・口径別	基本料金(円)		水道料金(1m ³ につき) (円)		
			第1段階	第2段階	第3段階
公衆浴場・水泳プール用	13mm・20mm	0～10m ³ まで	1,175	11～20m ³	21～40m ³
	25mm		1,388	106	118
	30mm		2,242	1～50m ³	51～200m ³
	40mm		4,058	118	128
	50mm		6,835	1～500m ³	501～5,000m ³
	75mm		19,864		5,001m ³ 以上
	100mm		31,932		
	150mm		71,339	128	139
	200mm		111,818		149

用途・口径別	基本料金(円)		水道料金(1m ³ につき) (円)		
			第1段階	第2段階	第3段階
公衆浴場・水泳プール用	13mm・20mm	0～10m ³ まで	(+129) 1,304	11～20m ³	21～40m ³
	25mm		(+152) 1,540	(+11) 117	(+12) 130
	30mm		(+246) 2,488	1～50m ³	51～200m ³
	40mm		(+446) 4,504	(+12) 130	(+14) 142
	50mm		(+751) 7,586	1～500m ³	501～5,000m ³
	75mm		(+2,185) 22,049		5,001m ³ 以上
	100mm		(+3,512) 35,444		
	150mm		(+7,847) 79,186	(+14) 142	(+15) 154
	200mm		(+12,299) 124,117		(+16) 166

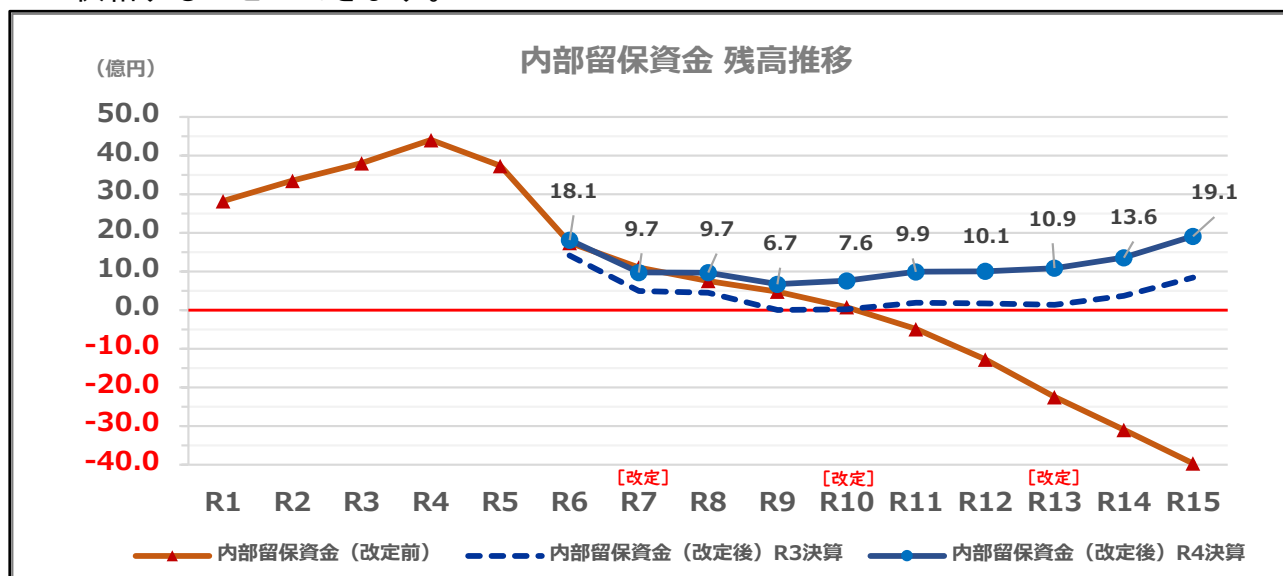
5 料金改定後における水道事業の財政状況

①料金改定により純利益は、新樋の口浄水場が稼働開始予定である2026(令和8)年度から2027(令和9)年度にかけて、減価償却費が嵩むため純損失が発生しますが、それを除いた年度は純利益を確保する見込みとなっており、継続して安心・安全な水道水を安定的に供給することができます。



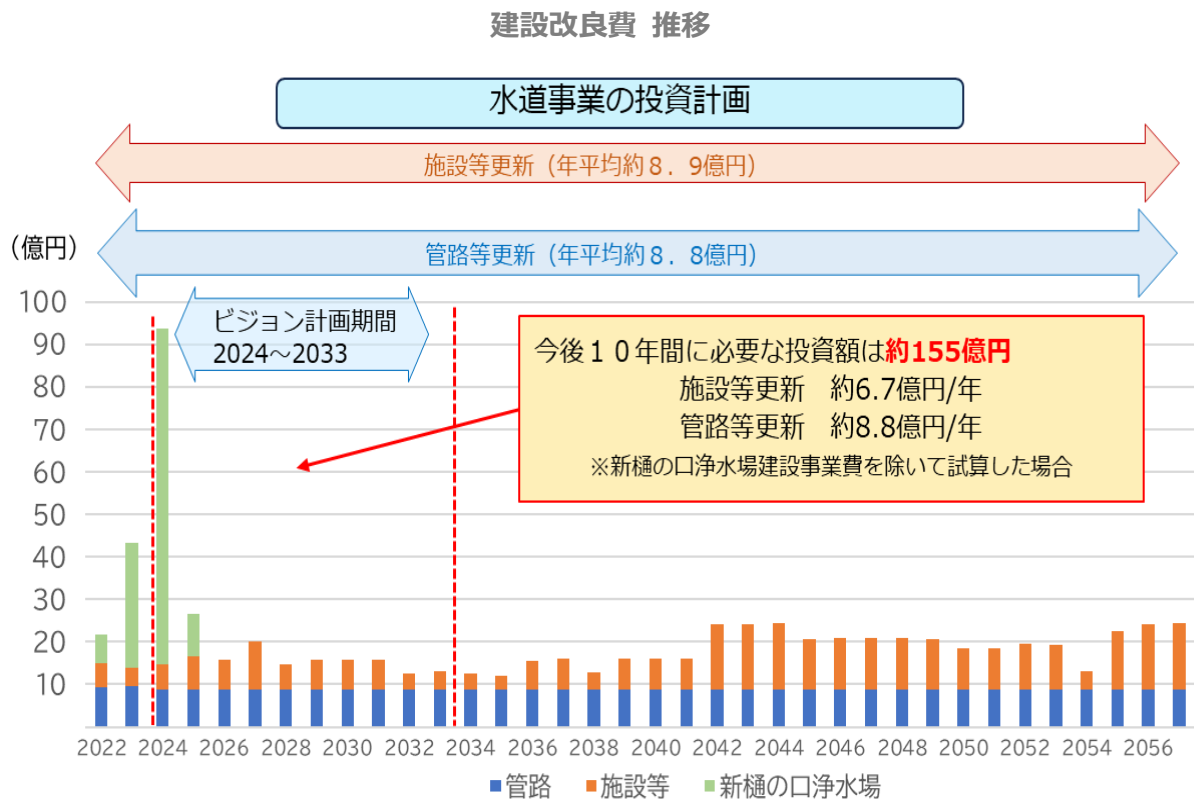
②地方公営企業の「貯金」にあたる内部留保資金の残高は、このまま料金改定を行わない場合、右肩下がり減少し続け、2029(令和11)年度以降はマイナスに転落し、水道事業の継続が困難となります。

2025(令和7)年度、2028(令和10)年度、2031(令和13)年度に値上げを行うことにより、概ね10億円を確保することができ、継続して安心・安全な水道水を安定的に供給することができます。



※このグラフは、下水道事業が値上げしても一時的に補てん財源(内部留保資金)の残高がマイナスとなることから、事業継続のため、貸付した場合の数値を基に推計しているものです。

③建設改良費は、2023(令和5)年度から2025(令和7)年度の数値が伸びておりますが、新樋の口浄水場建設事業に伴うものであり、事業終了後は平準化する見込みとなっております。



6 下水道事業の現状

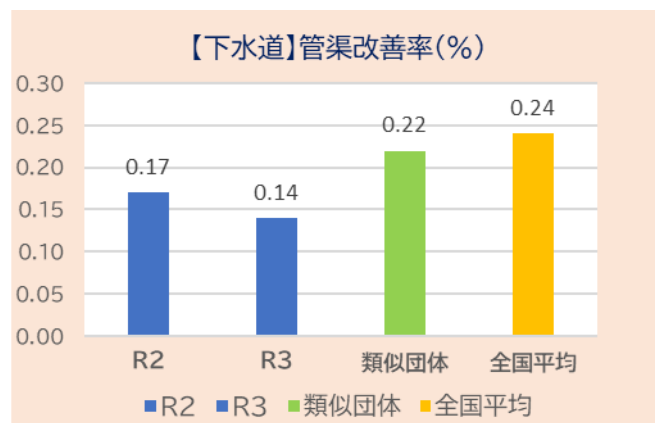
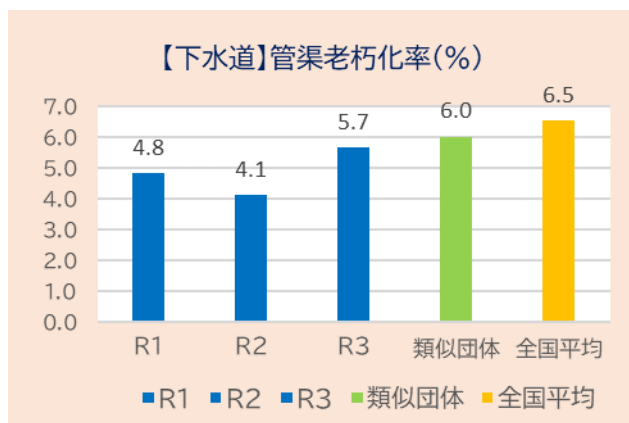
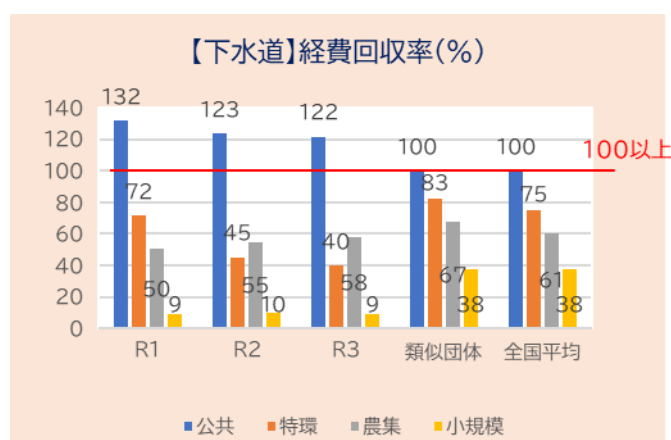
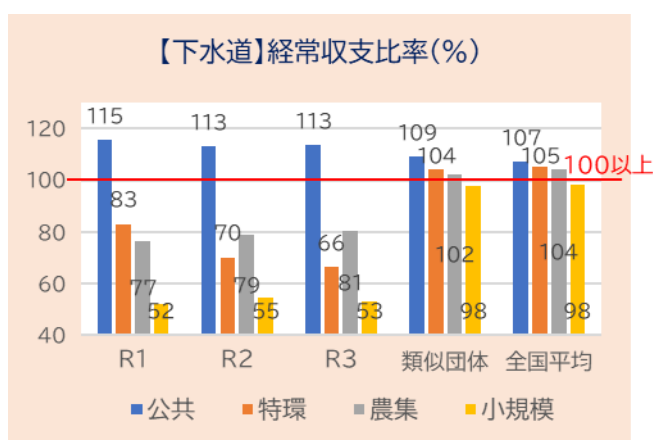
①1973(昭和 48) 年に供用を開始して以降も整備を進め、2022(令和 4) 年度末における普及率は 97.66%となっております。

当市の下水道事業は、公共下水道(公共)、特別環境保全公共下水道(特環)、農業集落排水事業(農集)、小規模集合排水処理事業(小規模)の 4 つで構成され、近年の経営状況は、下水道使用料などで維持管理の費用をどの程度賄えているかを表す「経常収支比率」や、回収すべき経費を、下水道使用料収入で賄えているかを表す「経費回収率」は、慢性的に公共のみ 100%を上回っております。

また、耐用年数を超えた管路延長の割合を表す「管渠老朽化率」は年々上昇し、管路を更新する必要性が高まっており、さらには、各年度に更新した管路延長の割合を表す「管渠改善率」も低水準で推移し、現行水準で全ての管路を更新するのに相当の年数がかかる試算となっている状況です。

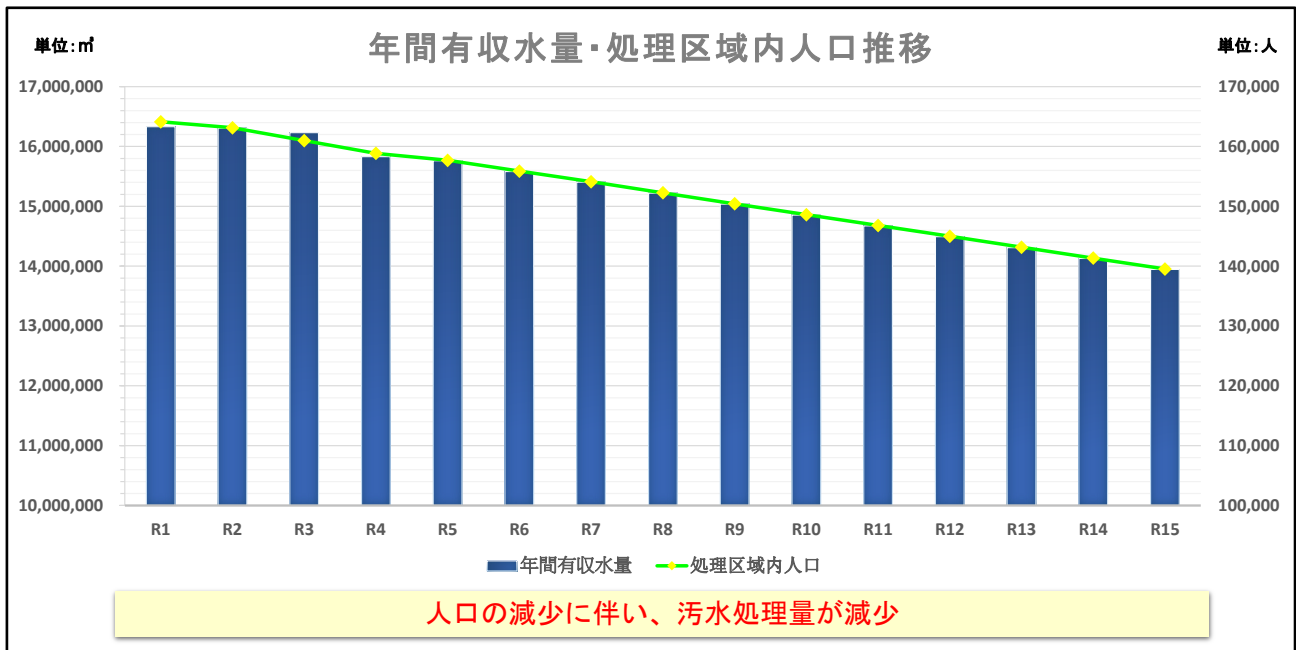
これらのことから、今後も継続して安心・安全な下水処理を確実に行うためには、老朽化した下水管の更新などを継続的に行う必要があります、多大な資金が必要と見込まれますが、人口減少による汚水量減少などの要因で、使用料収入の確保が年々厳しくなり、現在の料金体系では資金が不足することが見込まれております。

このため、今後必要となる資金を確保し、将来世代に負担を先送りしないためにも、下水道使用料を改定する必要があります。



※「類似団体」とは・・・弘前市と同規模の団体のこと。
(処理区域内人口 10 万人以上かつ処理区域内人口密度 50 人/ha 未満)

②下水道使用料の根拠となる有収水量は、今後も人口減少に合わせて減り続けることが見込まれ、現行の下水道使用料では継続して安心・安全な下水処理を確実に行うことが困難であります。



7 下水道使用料改定（案）

① 現行の下水道使用料では、安心・安全な下水処理を継続するのが将来的に困難であることから、標準的な家庭である3人から4人家族のひと月の汚水量として多い

「20 m³」を基に計算した場合、本来であれば2025(令和7)年度に1,730円(55.0%)の値上げが必要と試算されておりますが、物価高などによる市民負担増を最小限に抑えることに主眼を置き、2025(令和7)年度、2028(令和10)年度、2031(令和13)年度の3年度おきに段階的に値上げいたします。

2025(令和7)年度は、使用水量20 m³を基に計算した場合、562円(17.9%)の値上げとなります。

本来必要な料金改定額及び料金改定率(税込)

年度 種別	現行	R7(2025)年度			R17(2035)年度		
	料金	料金	改定額	改定率	料金	改定額	改定率
水道料金	3,922	5,059	1,137	28.9%	5,363	304	6.0%
下水道使用料	3,145	4,875	1,730	55.0%	4,875	—	—
合計	7,067	9,934	2,867	40.5%	10,238	304	3.0%

※現行料金は、使用水量・汚水量を20m³/月を標準として算出

《本来必要な改定率》

令和7年度に 55.0%引上げ



《激変緩和》

令和7・10・13年度の
3回に分けて値上げを実施

激変緩和を考慮した料金改定額及び料金改定率(税込)

年度 種別	現行	R7(2025)年度			R10(2028)年度			R13(2031)年度		
	料金	料金	改定額	改定率	料金	改定額	改定率	料金	改定額	改定率
水道料金	3,922	4,349	427	10.9%	4,827	478	10.9%	5,160	333	6.8%
下水道使用料	3,145	3,707	562	17.9%	4,225	518	13.9%	4,901	676	16.0%
合計	7,067	8,056	989	13.9%	9,052	996	12.3%	10,061	1,009	11.1%

※現行料金は、使用水量・汚水量を20m³/月を標準として算出

② 現行と 2025 (令和 7) 年度改定の料金を比較すると以下のとおりとなります。

《一般用》 上下水道料金早見表 ～現行料金と令和7年度改定(案)との比較～

10.9%引上げ

17.9%引上げ

水道料金【口径20mm/1か月あたり税込】				下水道使用料【一般家庭/1か月あたり税込】				水道料金・下水道使用料合計【1か月あたり税込】			
使用水量	新料金	現行料金	差 額	使用水量	新料金	現行料金	差 額	使用水量	新料金	現行料金	差 額
10m ³	1,889円	1,702円	+187円	10m ³	1,587円	1,345円	+242円	10m ³	3,476円	3,047円	+429円
20m ³	4,349円	3,922円	+427円	20m ³	3,707円	3,145円	+562円	20m ³	8,056円	7,067円	+989円
30m ³	6,939円	6,262円	+677円	30m ³	5,887円	4,995円	+892円	30m ³	12,826円	11,257円	+1,569円
40m ³	9,529円	8,602円	+927円	40m ³	8,877円	7,535円	+1,342円	40m ³	18,406円	16,137円	+2,269円
50m ³	12,249円	11,062円	+1,187円	50m ³	11,867円	10,075円	+1,792円	50m ³	24,116円	21,137円	+2,979円

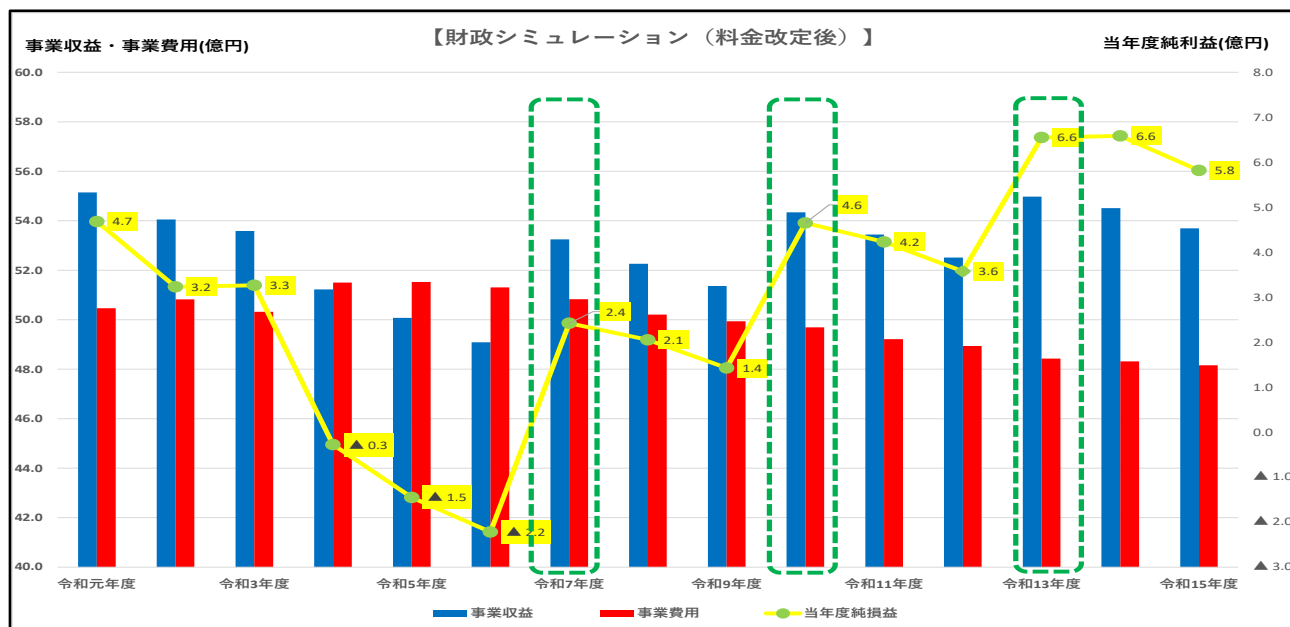
③ 現行と 2025 (令和 7) 年度改定の料金体系を比較すると以下のとおりとなります。

現行料金表 (税抜)  ◆基本料金17.9%・従量料金17.9% 均一に増額

用途	水 量	使 用 料	
一般用	10m ³ まで	基本使用料	1,223円
	11m ³ ～ 20m ³	1m ³ につき	164円
	21m ³ ～ 30m ³	〃	169円
	31m ³ ～ 50m ³	〃	231円
	51m ³ ～ 100m ³	〃	279円
	101m ³ ～ 500m ³	〃	287円
	501m ³ ～	〃	299円
公衆浴場用	10m ³ まで	基本使用料	1,223円
水泳プール用	11m ³ ～	1m ³ につき	46円
一般用	10m ³ まで	基本使用料	(+220) 1,443円
	11m ³ ～ 20m ³	1m ³ につき	(+29) 193円
	21m ³ ～ 30m ³	〃	(+30) 199円
	31m ³ ～ 50m ³	〃	(+41) 272円
	51m ³ ～ 100m ³	〃	(+50) 329円
	101m ³ ～ 500m ³	〃	(+51) 338円
	501m ³ ～	〃	(+53) 352円
公衆浴場用	10m ³ まで	基本使用料	(+220) 1,443円
水泳プール用	11m ³ ～	1m ³ につき	(+8) 54円

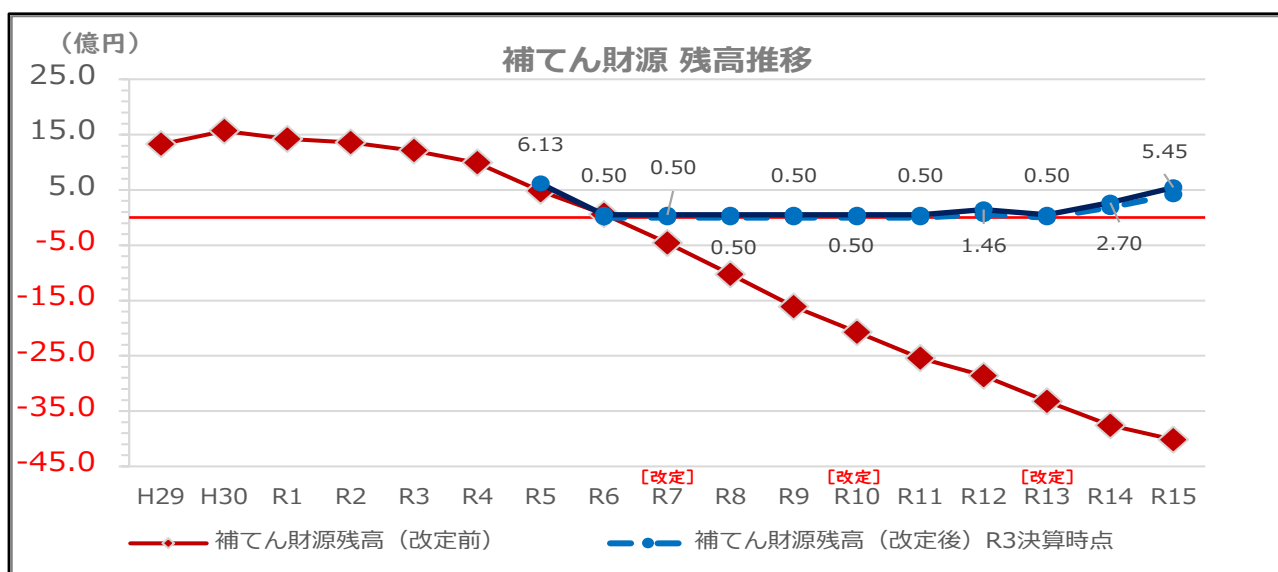
8 料金改定後における下水道事業の財政状況

①純利益は、原油高に伴う岩木川流域下水道維持管理負担金の増加により 2024(令和6)年度まで純損失が発生しますが、値上げ以降は純利益を確保する見込みとなっており、継続して安心・安全な下水処理を確実に行うことができます。



②地方公営企業の「貯金」にあたる内部留保資金の残高は、このまま料金改定を行わない場合、右肩下がりで減少し続け、2年後の2025(令和7)年度以降はマイナスが続き、下水道事業の継続が困難となります。

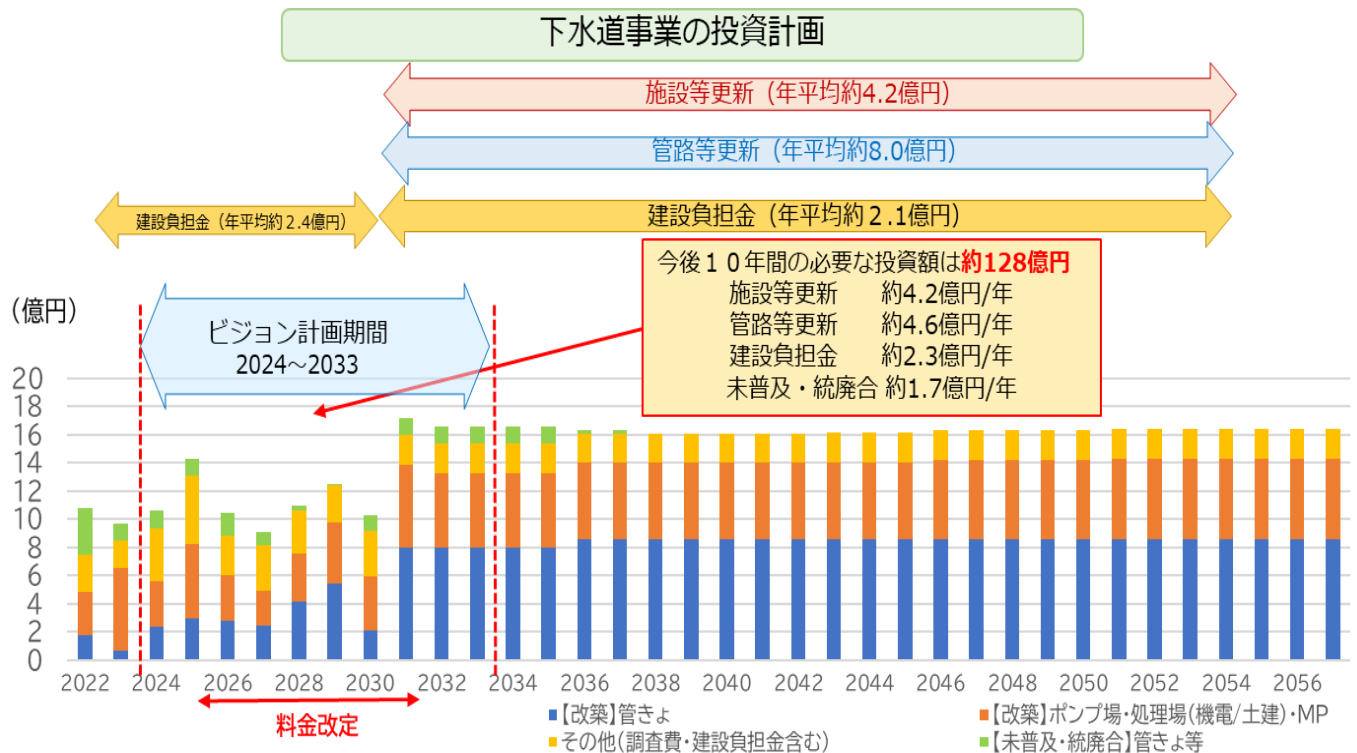
2025(令和7)年度、2028(令和10)年度、2031(令和13)年度に値上げを行っても一時的にマイナスとなりますが、その間は水道事業から借入れを行うことにより、継続して安心・安全な下水処理を確実に行うことができます。



※このグラフは、下水道事業が値上げを実施しても一時的に補てん財源(内部留保資金)の残高がマイナスとなることから、事業継続のため、水道事業より借入れを行った場合の数値を基に推計しているものです。

③建設改良費は、財政状況を考慮し、2030(令和12)年度までは抑制し、財政状況の好転が見込まれる2031(令和13)年度以降は、平準化を図りながら老朽化した設備等の改築を進める見込みとなっております。

建設改良費 推移



9 【参考】県内 10 市における料金比較

①他市の料金は、2023(令和5)年10月1日現在でホームページや条例等に掲載されている金額により計算しております。

②最小・最大・平均の金額は、弘前市(現行)を除いて計算しております。

③ [水道料金 注釈]

注1：八戸市は八戸圏域水道企業団より供給している料金

注2：つがる市は津軽広域水道企業団(西北事業部)より供給している料金

注3：つがる市、平川市はメーター使用料を含む料金

1. 水道料金

一般用 口径20mm 《税込》

【R7に基本料金・従量料金 10.9%引上げ改定後】

10m ³ /月			20m ³ /月			30m ³ /月		
順位	事業体名	料金(円)	順位	事業体名	料金(円)	順位	事業体名	料金(円)
低 ↓ 高	1 三沢市	1,595	1 青森市	3,289		1 三沢市	5,115	
	弘前市(現行)	1,702	2 三沢市	3,355		2 青森市	5,159	
	2 むつ市	1,826	弘前市(現行)	3,922		弘前市(現行)	6,262	
	3 青森市	1,859	3 十和田市	4,181		3 十和田市	6,282	
	4 弘前市(改定後)	1,889	4 弘前市(改定後)	4,349		4 平川市	6,600	
	5 十和田市	2,080	5 平川市	4,510		5 弘前市(改定後)	6,939	
	6 八戸市	2,090	6 むつ市	4,675		6 むつ市	7,524	
	7 平川市	2,420	7 八戸市	4,961		7 八戸市	7,887	
	8 つがる市	3,036	8 黒石市	5,687		8 黒石市	8,107	
	9 黒石市	3,267	9 五所川原市	5,860		9 つがる市	8,976	
	10 五所川原市	3,517	10 つがる市	6,006		10 五所川原市	9,270	
	平均	2,358	平均	4,687		平均	7,186	

2. 下水道使用料

一般用 《税込》

【R7に基本料金・従量料金 17.9%引上げ改定後】

10m ³ /月			20m ³ /月			30m ³ /月		
順位	事業体名	料金(円)	順位	事業体名	料金(円)	順位	事業体名	料金(円)
低 ↓ 高	1 むつ市	1,276	1 青森市	3,108		1 三沢市	4,130	
	2 八戸市	1,315	2 平川市	3,124		2 平川市	4,684	
	3 青森市	1,337	3 三沢市	3,130		3 五所川原市	4,972	
	弘前市(現行)	1,345	弘前市(現行)	3,145		弘前市(現行)	4,995	
	4 平川市	1,564	4 五所川原市	3,300		4 つがる市	5,060	
	5 弘前市(改定後)	1,587	5 むつ市	3,300		5 むつ市	5,324	
	6 つがる市	1,760	6 八戸市	3,383		6 青森市	5,528	
	7 十和田市	1,856	7 つがる市	3,410		7 八戸市	5,594	
	8 五所川原市	2,013	8 弘前市(改定後)	3,707		8 弘前市(改定後)	5,887	
	9 黒石市	2,021	9 黒石市	4,045		9 黒石市	6,069	
	10 三沢市	2,130	9 十和田市	4,045		10 十和田市	6,234	
	平均	1,686	平均	3,455		平均	5,348	

1 + 2 水道料金・下水道使用料 合計

一般用 《税込》

低
↓
高

10m ³ /月		
順位	事業体名	料金 (円)
	弘前市 (現行)	3,047
1	むつ市	3,102
2	青森市	3,196
3	八戸市	3,405
4	弘前市 (改定後)	3,476
5	三沢市	3,725
6	十和田市	3,936
7	平川市	3,984
8	つがる市	4,796
9	黒石市	5,288
10	五所川原市	5,530
	最 小	3,102
	平 均	4,044
	最 大	5,530

20m ³ /月		
順位	事業体名	料金 (円)
1	青森市	6,397
2	三沢市	6,485
	弘前市 (現行)	7,067
3	平川市	7,634
4	むつ市	7,975
5	弘前市 (改定後)	8,056
6	十和田市	8,226
7	八戸市	8,344
8	五所川原市	9,160
9	つがる市	9,416
10	黒石市	9,732
	最 小	6,397
	平 均	8,143
	最 大	9,732

30m ³ /月		
順位	事業体名	料金 (円)
1	三沢市	9,245
2	青森市	10,687
	弘前市 (現行)	11,257
3	平川市	11,284
4	十和田市	12,516
5	弘前市 (改定後)	12,826
6	むつ市	12,848
7	八戸市	13,481
8	つがる市	14,036
9	黒石市	14,176
10	五所川原市	14,242
	最 小	9,245
	平 均	12,534
	最 大	14,242